

### 第3 問題作成部会の見解

#### 1 出題教科・科目の問題作成の方針（再掲）

- 歴史に関わる事象を多面的・多角的に考察，構想する過程を重視する。

用語などを含めた個別の事実等に関する知識のみならず，歴史に関わる事象の意味や意義，特色や相互の関連等について，歴史的な見方・考え方を働かせながら，概念などを活用して多面的・多角的に考察したり，課題の解決を視野に入れて構想したりする力を求める。『歴史総合、日本史探究』及び『歴史総合、世界史探究』では、「歴史総合」で学習したことで、それを基に「日本史探究」又は「世界史探究」で学習したことを問う。

問題の作成に当たっては，事象に関する深い理解を伴った知識を活用して，例えば，教科書等で扱われていない資料であっても，そこから得られる情報と授業で学んだ知識を関連付ける問題や，仮説を立てて資料に基づき根拠を示したり検証したりする問題，時代や地域を超えて特定のテーマについて考察する問題などを含めて検討する。

#### 2 各問題の出題意図と解答結果

第1問 『地理総合／歴史総合／公共』の「歴史総合」第2問と同じ。

第2問 学習指導要領日本史探究1目標(2)「我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義，伝統と文化の特色などを，時期や年代，推移，比較，相互の関連や現在とのつながりなどに着目して，概念などを活用して多面的・多角的に考察したり，歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や，考察，構想したことを効果的に説明したり，それらを基に議論したりする力」を十分に身に付けているかどうかを問うべく，「日本における争いごとの裁定や法の整備」をテーマとして取り上げ，近代的な刑法の成立過程や，前近代的な法や刑罰について，歴史的な見方・考え方を働かせて考察させることをねらって通史的に設問を作成した。その際，3内容の取扱い(2)ウ「様々な歴史資料の特性に着目し，諸資料に基づいて歴史が叙述されていることを踏まえて多面的・多角的に考察できる」かを問うように心掛けた。難易度については，おおむね標準的であった。

第3問 学習指導要領日本史探究2内容A「原始・古代の日本と東アジア」(3)「古代の国家・社会の展開と画期」について，主題を設定し，事象の意味や意義，関係性などを多面的・多角的に考察し，歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する学習を通じて思考力・判断力・表現力等の育成を図りつつ，古代の日本の国家・社会の展開について理解することをねらいとして，本問では古代の税制を中心とした経済的なテーマから設問を設けた。出題に際しては，高校で学習した知識を前提としつつ，更に思考力・判断力・表現力等を問うたり，資料を読み取りながら歴史的な因果関係などの諸事象を関連付ける能力を問うたりするような設問とした。難易度については，おおむね標準的であった。

第4問 学習指導要領日本史探究2内容B「中世の日本と世界」(2)「歴史資料と中世の展望」ア(ア)「中世の特色を示す適切な歴史資料を基に，資料から歴史に関わる情報を収集し，読み取る技能を身に付けること」，(3)「中世の国家・社会の展開と画期」ア(ア)「武家政権の成立と展開，産業の発達，宗教や文化の展開などを基に，武家政権の伸張，社会や文化の特色を理解すること」，イ(イ)「社会や経済の変化とその影響，東アジアの国際情勢の変化とその影響，地域の多様性，社会の変化と文化との関係などに着目」を踏まえ，中間Aでは和歌を素材とし，中世貴族の家職や中世武士の文化的側面に関して理解できているか否かを問うた。中間Bでは中

世初期の貴族の家が中世の終焉に至るまでにいかなる歴史的推移をたどったのかという観点から、政治史・経済史・文化史・社会史を連関して理解しているかを問うた。難易度については、おおむね標準的であった。

第5問 学習指導要領日本史探究2内容C「近世の日本と世界」(3)イ(イ)「社会・経済の仕組みの変化」「国際情勢の変化と影響」「政治・経済と文化との関係」、及び内容D「近現代の地域・日本と世界」(1)ア(ア)「対外政策の変容と開国、幕藩体制の崩壊と新政権の成立などを基に、近世から近代への時代の転換を理解すること」、イ(イ)「欧米諸国の進出によるアジア諸国の変化、政治・経済の変化と思想への影響などに着目して、近世から近代の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し、表現すること」などを踏まえ、近世の対外認識を主題として、外交・政治・社会・文化の全般、及び近世から近代への変化に関する内容的・概念的な理解を問うとともに、関連する資料を基に、情報を読み取る能力を問うことをねらいとした。難易度については、おおむね標準的であった。

第6問 学習指導要領日本史探究2内容D「近現代の地域・日本と世界」(2)「歴史資料と近代の展望」ア(ア)「近代の特色を示す適切な歴史資料を基に、資料から歴史に関わる情報を収集し、読み取る技能を身に付けること」、及びイ(イ)「歴史資料の特性を踏まえ、資料から読み取れる情報から、近代の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現すること」を踏まえ、近現代日本における社会的弱者の権利獲得を主題として、(1)「近代への転換と歴史的環境」にある「近世から近代への時代の転換」の古代・中世を含めた理解、(3)「近現代の地域・日本と世界の画期と構造」にある「社会運動の動向」を基にした「国民国家の形成」の理解、「文明開化の風潮」「教育制度の拡充、社会問題の発生」を基にした「産業の発展の経緯と近代の文化の特色、大衆社会の形成」の理解、「占領政策と諸改革、日本国憲法の成立」「高度経済成長」を基にした「社会の枠組み、国民生活の変容」の理解を問うた。以上を踏まえ、戦前と戦後の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察して、その根拠を示して表現できることを目指した。難易度については、おおむね標準的であった。

### 3 自己評価及び出題に対する反響・意見等についての見解

問題の表現については、「簡潔で読みやすく、資料の提示を含め出題の意図も明快であった」との評価をいただいた。問題の形式についても、「全ての大問が生徒の学習や探究の場面を設定した問題となり、その学習の過程で作成したノート等の資料が多く見られた。各大問における最後の小問は、昨年度と同様に歴史的な事象や概念、構造に関して検証・考察する問いが設けられていた」との評価もいただいた。

総括的な評価としては「多様なテーマ設定や学習・探究の場面を通じ、歴史的な事象の内容的・概念的な理解だけでなく、資料から情報を収集・整理する技能や、事象の変遷や背景を論理的に考察・検証する思考力・判断力・表現力等を多面的に評価しようとする問題であった」、「基本的事項の正確な理解を適正に評価しつつ、歴史的な見方・考え方を働かせることを求める今回の問題は、高等学校の授業方法の改善に向けたメッセージとして、非常に示唆に富むものといえる」との評価をいただいた。今後もこうした評価をいただけるよう継続して努力していきたい。ただし、文字資料への偏りがあるなど多様な資料活用には更なる工夫が必要との指摘もいただいております。この点については次年度の課題としたい。

第1問 『地理総合／歴史総合／公共』の「歴史総合」第2問と同じ。

第2問 問1は、図と会話文から盟神探湯の時期を読み取り、土偶製作の時期との違いを判断する力を問うた。「誤文『い』は縄文時代の土偶の説明であり時期ずれで受験者は容易に判断する

ことができた」と評価された。問2は、分国法の資料から考察・構想に必要な情報が読み取れるか問うた。「資料から必要な情報を読み取る技能と、喧嘩両成敗についての基本的な知識が求められた」と評価された。問3は、江戸時代の公事方御定書や死刑の適用範囲縮小に関して、前提となる時代の様相を問うた。「変化の前提として時期や内容が適切かを検証する思考力・判断力・表現力等が求められる良問だった」と評価された。問4は、資料の内容と罪刑法定主義の原則の適合性について判断する力を問うた。「会話文と資料から必要な情報を読み取る技能が求められた」と評価された。問5は、歴史上の法の整備や裁定について、背景・原因・結果・影響等を含め理解できているかどうかを問うた。「日本史探究の性格が反映された出題であった」と評価された。今後も、資料を適切に活用し、思考力・判断力・表現力等を評価できるような問題の作成に努めたい。

第3問 問1は、古代の税制に関する基礎的知識を理解した上で、関連する法制資料を適切に読み取ることができるかを問うた。「資料から必要な情報を読み取る技能と、律令の税制に関する基本的な知識が求められた」と評価された。問2は、地図の情報を正確に読み取った上で、縄文時代における植生の特徴や江戸時代における特産品の産地について理解しているかを問うた。「原始以外で扱われることの少ないであろう自然環境的要因にも視野を向けさせる出題であった」と評価された。問3は、古代の経済に関わる基礎的知識を理解した上で、続日本紀の漆関連記事を適切に読解できるかを問うた。「資料活用の技能と知識、分析的思考を要求する構成で工夫された問題であった」と評価された。問4は、古代の地方で出土した漆紙文書を基に、地方の税制や行政の在り方に関する理解度を問うた。「漆紙文書の戸籍から読み取れる情報と『ノート』の記述内容、及び古代律令税制に関する基本的知識の統合を要求する日本史探究の理念を反映した出題であった」と評価された。問5は、古代と中世における職人の存在形態の特徴について理解しているかを問うた。「それまで出てきた資料やノートから必要な内容を読み取る技能と、乾漆像が流行した時期や室町時代の座に関する理解が求められた」と評価された。今後も、多様で適切な資料を用いて、思考力・判断力・表現力等を適切に評価できる問題の作成に努めたい。

第4問 問1は、中世の貴族が家職という特色を持つという知識をもとに、中世的特徴を持つ家職である撰閥家と、家業としての武芸を行う貴族の歴史的展開に関して問うことで、情報を読み取る技能、政治史における歴史的事象の内容的理解を問うた。「単に歴史的事象の名辞を習得するばかりではなく、事象について正確な背景・経緯などの理解を必要とする良問である」と評価された。問2は、図及び資料の内容の読み取りとともに、鎌倉時代の武家の文化性や貴族との交流についての理解を問うことで、情報を読み取る技能、歴史的事象の相互のつながりに着目し、その関連をとらえることができているかどうかを問うた。「選択肢文の間で文章の構成要素にやや偏りが見られた」と評価された。問3は、百人一首の成立についての疑問を解決するための論理的思考を問うた。ノートから適切に情報を読み取り、鎌倉時代の文化史上の事象における人とモノのつながりを、基礎的な知識との関連でとらえることができているかどうかを問うた。「情報を読み取りまとめ、妥当性を判断する力が求められた」と評価された。問4は、和歌の家の歴史的推移と、鎌倉幕府崩壊後から南北朝時代の内乱の経過を連関させて考えるための問題。歴史的事象の起こった順番を問うことで、背景・原因・結果・影響等も含む内容的理解を測っている。「年代などを前提とした単なる並べ替えに留まらず、歴史的経緯を判断する必要のある評価できる問題である」と評価された。問5は、戦国時代における貴族と武士の文化面での関係性、社会の状況を、地図の読み取りを絡めつつ、理解できているかどうかを問うた。「内容への基礎的な理解を前提に、情報を読み取る技能を問う良問であった」と評価された。

今後も多様な資料を活用して、思考力・判断力・表現力等をより適切に評価できるような出題形式を工夫していきたい。

第5問 問1は、江戸時代の対外関係について問うた。「江戸時代の海外渡航や外国情報、外交秩序や貿易に関する内容への理解が問われた」と評価された。問2は、近世中後期の対外情報を記した書物を素材に、グラフの読み取りを含めて近世の対外関係について問うた。「興味深い題材を扱った問題」で「資料活用の適切な判断が求められた」と評価された。問3は、享保の改革について内容的に理解できているかどうかを問うた。「用語の提示を避け、内容を示した文章で内容理解を測るよう工夫されている」と評価された。問4は、アヘン戦争の情報を記した書物の流布を素材に、歴史事象相互の関連について捉えることができているかどうかを問うた。「識別力のある良問であった」と評価された。問5は、近世の東アジアの人々との接触、また幕末期に欧米諸国に渡航した人々の事績について、疑問を提示してその調べ方を問うた。「歴史の探究をする際の手続きを問う、科目の趣旨を反映した出題であった」と評価された。今後も資料を有効に活用するなど工夫しながら、科目の趣旨を踏まえた問題の作成に努めたい。

第6問 問1は、前近代の社会的弱者に対する救済事例をまとめた表の内容を理解できているかを問うた。「古代ばかりでなく、綱吉期の生類憐みの令などの政策に関しても、為政者の政策に仏教的な帰依が存在するといった背景への理解など、より深い内容理解が求められた」と評価された。問2は、楽善会に関する資料を読み、当時の思想・経済状況などの社会的背景を理解できているかを問うた。「会話文と資料、それぞれから正確に情報を読み取る技能と、西洋近代思想や近代の産業史などに関する正確な内容理解が求められた」と評価された。問3は、近現代日本における障がい者等の当事者運動の事例をまとめたノートを読み、障がい者等が直面した困難の背景を、当時の政治状況とも関連付けながら理解できているかを問うた。「資料内容の充実さに比して、選択肢が基礎的であった」などの意見があった。問4は、1964年開催のパラリンピックの出場者が作成した資料を読み、同時期の社会・経済状況と関連付けながら理解できているかを問うた。「日本史探究の授業の方向性を示唆する良問である」と評価された。問5は、三つの事例について、それぞれの特徴を把握できているかを問うた。「問題全体を総合的にまとめ、情報を選択し判断する力を要する、共通テストとしての性格を反映した良問である」と評価された。今後も、多様な資料を活用しながら、思考力・判断力・表現力等をより適切に評価できるような問題の作成に努めたい。

#### 4 まとめ

授業を通じて学んだ知識と初見資料から読み取れる情報とを併せて考察させる問題や、生徒自らが作った仮説を資料に基づき検証するような問題、時代や地域を超えて特定のテーマについて考察する問題など、前年度から引き続き、新課程の趣旨を踏まえて作問に努めた。会話文の中に未知の歴史事象を織り込み、多様な形態の資料など多くの情報量を処理する出題形式を採用したが、文字資料をできる限り現代語訳して示すことによって、おおむね標準的な問題を作成できたものと考えている。来年度以降も、以下の諸点に留意しながら、受験者の学力を適切に評価できる問題作成を進めたい。

- (1) 高等学校教育の範囲と水準に深く配慮をしながら、標準的な問題を作成する。
- (2) 学校現場での授業実践にも良いメッセージとなるような出題上の工夫をする。
- (3) 文字資料だけでなく、画像・地図・表など多様な資料を提示しながら、歴史事象に関する深い理解に至りうるような問題の作成に工夫を凝らす。
- (4) 授業や探究活動を通じて身に付けた資質・能力の到達度を明確に測れるような出題に努める。